法政大学小金井キャンパス

教職課程センター通信「こがねい」

～ SUPER TEACHER への道 ～

西館 B1　kkck@ml.hosei.ac.jp　No.13　01/Apr/2023

3 月を振り返って

２月から３月にかけて、教職課程センターでは「個人面接演習」「集団討論演習」を実施し、それぞれ延べ 35 人、13 人の方が参加してくれました。ほとんどの学生にとって面接は初体験であったため、色々と戸惑いや混乱もあったようですが、今回の演習のねらいは「場の雰囲気に慣れる」ことなので、その意味で当初の目的は達成されたのではないでしょうか。そこで、面接官目線で感じた「改善点」についてまとめておきます。

受け身になってはいけない。

面接官が一番確かめたいことは「この人物に子どもたちを預けても大丈夫だろうか？」という点につきます。ですから皆さんは「私に任せてください。私は子どもたちに寄り添い、彼らの成長をサポートしてみせます！」という心構えを、面接官に伝わるようにアピールする必要があります。アピールの方法は、表情・態度・眼力・受け答え等多岐に渡りますが、特に非言語コミュニケーションは大切です。「人は見た目が 9 割」という本がベストセラーになりましたが、この本にはノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）の重要さが述べられています。表情・声のトーン・目線・身振り手振り・しぐさ・間のとり方など、人は誰しも無意識のうちに全身で自分自身を表現しています。よく「あの人にはオーラがある」などと言いますが、そんな人はきっと、ノンバーバルコミュニケーションの達人なのかもしれませんね。きっと全身でメッセージを発信しているのでしょう。私はこの「オーラ」は、意識することでけっこう獲得できるのではないかと考えています。面接会場に入る前に、自信をもって堂々とアピールできるよう、しっかりと気持ちを作ってから面接に臨んでください。**さあ、これから始まる面接官との会話のラリーを楽しもう！と思えるくらい、心に余裕をもって面接に臨むことが大切です。**

何を話すか、も大切だが「どのように話すか」の方が大切である。

もうすでにお伝えしていることですが、面接は、面接官が気に入った人間を選ぶための選考方法です。そのため面接官は受験生の「印象」を大変重視します。当然ですが、第一印象はいいに越したことはありません。まずは身だしなみを整えてください。無精ひげ、ぼさぼさの髪などは論外ですが、磨かれた靴、折り目正しいパンツやスカート、しわのないシャツやブラウス、しっかりまとめられた髪型、など、ちゃんと準備して今日の面接に臨んでいますよ！」と身だしなみでアピールしてください。キーワードは「清潔感」です。面接は、初対面の面接官があなたに興味津々でいろいろ訊いてくる場面なので、素直に「私はこういう人間で、教員としてこういう適性・長所があります。私が教員になったらこんな生徒を育てて、こんな学校づくりに参画したいです」と**あなたの理想を語ってあげてください。**面接官は泣いて喜んで合格を出してくれますよ。正解のない問いかけも、いろいろあります。でも面接官は正解を求めているわけではありません。難しい問いかけに**あなたがどのように「真摯に」回答してくるか、というあなたの熱意・人間性・将来性を見ています。だから「私にはこんなに教職へのモチベーションがありますよ！」と堂々とアピールして面接官を安心させてあげましょう。**

一度に多くを語ろうとしてはいけない。

準備をすればするほど「あれも伝えたい、これも話したい」と色々と頭に浮かんできます。その結果言いたいことを全部まとめて伝えよう！と思って長くしゃべる人がいますが、これは逆効果で印象が良くないです。回答する際は、訊かれた項目に正対して短くコンパクトに返すようにしてください。面接官は当然その回答の理由が知りたいので、「なぜそう考えるのですか？」と追加の質問をしてきます。そうしたら「理由は～～だからです」とコンパクトに返します。そしてさらに追加の質問を引き出し、コンパクトに回答する。そんなラリーが続くことで、お互いの緊張感も下がりますし、面接官とのコミュニケーションが深まっていきます。リズムも良くなり、結果として「はきはき受け答えしてくれる」という好印象につながるのです。ですから**一度にたくさん答えてはいけません。訊かれたことだけに短く答えてください。ラリーに持ち込むことを意識しましょう。**

４月の予定

早ければ、連休明けには教育実習が始まる人もいると思います。実習校には早めにアポを取ってあいさつに行きましょう。指導教諭との面接で、担当する学年・クラス・指導単元等、必要な情報を確認して下さい。実習期間中の授業の進め方の見通しがつけば、研究授業で自分が担当する授業内容の見当がつくと思います。授業の進め方の見通しが立ったら、教職課程センターに用意されている資料を活用し、学習指導案の作成を始めましょう。個別に相談に乗りますので、まずは略案を立てるところから始めて下さい。模擬授業の設定も致しますので、実習前に必ず模擬授業体験をして、実際に自分が指導者として授業を進める感覚を身に着けてから実習に参加するようにしてください。４月 10 日から５月 17 日まで、模擬授業演習期間とします。個別に対策を立てていきますので、実習の日程が決まった段階で連絡して下さい。

論文は教職に対する「ラブレター」 面接は「オーディション」である！

選考論文作成の目的と理念は、12 月号～3 月号の 4 回シリーズで詳しく紹介しましたので、そちらを参考にしてください。今月号では面接に対する考え方を紹介します。面接は、初対面の人間の中から「この人なら生徒を任せても大丈夫」と感じられる人を選ぶ選考です。結論としては、面接官に**「好感」**をもってもらえなければ、合格はありません。面接官に**「共感」**してもらえなければ、合格はありません。面接官に**「好印象」**を感じてもらえなければ、合格はありません。つまり、

個人面接で合格するためには、**好感・共感・好印象** を勝ち取り、面接官に、「この人と働きたい」、「この人なら子どもの前に教師として立たせたい」と思わせることなのです。面接官が合格させたいと思うプロセスは、

①面接官があなたを**見て（話を聞いて）**

②あなたの**明るさ・元気さ・爽やかさに好感を持ち**、

③あなたの**想いと言葉に共感し**、

④あなたの**語りと雰囲気に心を惹かれ**、

⑤あなたと**一緒に語り合いたい、働きたい**、

と感じてくれれば合格です。では面接を受ける側である皆さんは、どんな心構えで面接に臨めばよいのでしょうか？
そこで、あなたは以下の質問に自信をもってイエスと答えられますか？

- ✧ あなたから理科や数学を教えてもらう子どもたちは幸せですか？
- ✧ あなたに担任を持ってもらう子どもたちは幸せですか？
- ✧ あなたは子どもたちからの信頼を勝ち取ることができますか？
- ✧ もしあなたが子どもだったら、今のあなたを教師として尊敬できますか？
- ✧ もしあなたが子どもだったら、今のあなたが担任だったら幸せですか？
- ✧ あなたのような教師を、あなた自身は好きですか？
- ✧ 子どもたちに「先生に会えてよかった」「先生に教えてもらってよかった」と言ってもらえる自信がありますか？

面接選考で一番大切なことは、**人間的な魅力がある人材だということを面接官（採用側）に感じてもらうことです。**「何を言うか、正解は何か」ばかり考えていてはダメです。**「何を言うか」も大切ですが、良い印象を持ってもらうためには「どう伝えるか」の方が何倍も大切です。**「面接では正解を言えばよい」と思っている人は今すぐに考えを改めてください。知識があっても、**人間的な魅力をアピールできない人は、個人面接で合格を勝ち取ることはできません。**まずは、自分の人間的な魅力をしっかりと意識してください。そしてその魅力を最大限にアピールできるように準備してください。

教職 TOPICS　No.13　教材研究の意義

教師を続けていく上で、日々取り組まなければいけない業務が「教材研究」です。なぜならば、教材は一度作ったら完成というものではなく、**子どもの成長や、社会の変化に対応して日々アップデートしていかなければならない**性質のものだからです。教師が行う「授業を中心とした教育活動」には必ず狙いや目的があります。つまり「この１時間の授業を行うことで、子どもたちに何を身につけさせたいのか、何に気づかせたいのか」そんな**子どもたちの変容と成長を「意図的かつ計画的にデザインしていく」ことが、教材研究の真の目的なのです**。子どもたちは「勝手に成長していく」のではなく、教師が彼らの成長に必要な様々な支援を続けることで、安心して自分を成長させることができます。その意味で、**教材研究はそんな「学習支援の計画書の作成」**と言い換えることができます。教師の活動の本命です！

教材研究（１）PDSI サイクル

Plan（計画する）の段階では、その教材を取り上げた目的が何であるか、を明らかにし、子どもたちの実態を見て指導計画を立てる。

Do（実行する）の段階では、実際に授業を行い、時間配分や教師の指導・助言の様子などを実践記録として記入する。

See（評価する）の段階では、授業記録を基に授業を振り返り、成果と課題を明らかにする。（自己評価＋先輩教員からの指導助言）

Improvement（改善する）の段階では、評価に基づき具体的に授業改善を行い、　再度提案授業を行う。

教材研究（2）教材研究の流れ

① 単元のねらいを明らかにし、取り扱う教材の内容について資料を集めて調べる。

② 学習内容と子どもの実態を考慮して、両者の関連から実現可能な授業プランを想定する。

（子どもの成長に思いを巡らせる） ⇦ **ここが大切！（次頁参照！）**

③ 子どもに身に着けさせたい力を明確にするために、関連資料を調べる。（ゴールの設定）

④ 子どもの実態に即して学習内容を精選する。（焦点化する）

⑤ 単元の指導計画と本時の指導経過を考える。（必要に応じて先輩・指導教員に相談する）

⑥ 先輩・指導教員に授業記録を依頼し、授業実践を行う。（授業記録はあった方が良い）

⑦ 自己評価及び先輩教員からの指導・助言を受け、成果と課題を明らかにする。（評価）

⑧ 評価に基づき授業改善を図り、再度提案する。

教材研究（3）教材・教具の準備

子どもたちに「楽しく・わかりやすい学び」を提供するためには、教材研究とともに、教材・教具の準備が大切です。教材・教具には以下の４つの領域があるので、子どもの実態、授業の内容を精査し、適切な教材教具を選択し、活用していくことが大切です。**特に自作の教材・教具は子どもの学習への関心・意欲を一段と高める効果があります。**

文字が中心となるもの

教科書、新聞、ワークシート、パンフレット、辞書、資料集、データベースなど

音声が中心となるもの

CD、歌、放送教材、録音インタビュー、教員の話、

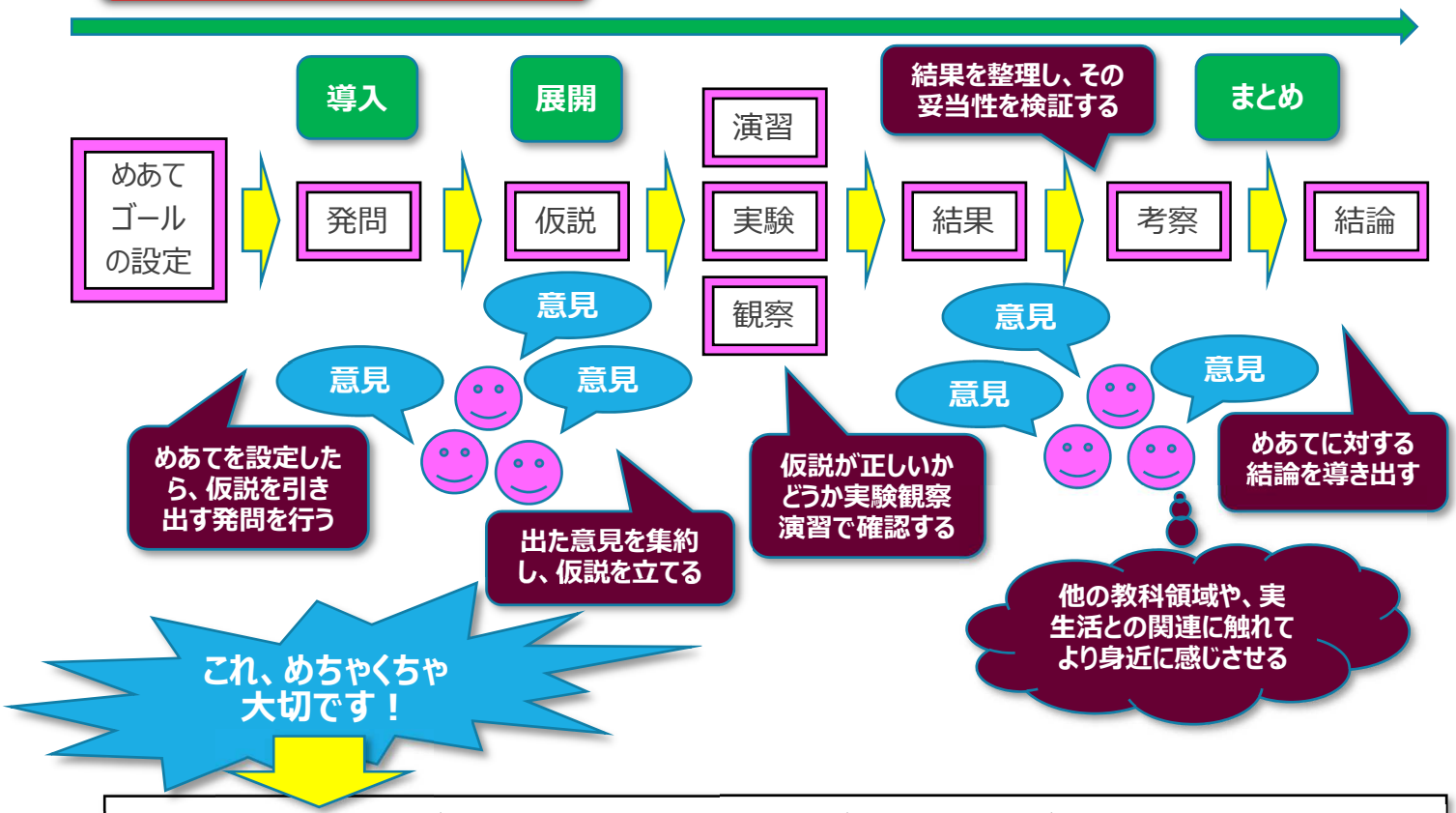
映像が中心となるもの

写真、ポスター、DVD、映画、YouTube等各種動画、 デジタルコンテンツ

その他

実物、絵画、図、表、グラフ、人形、模型、商品見本、パワーポイント（自作）

教材研究（４）授業の進め方



「学習指導要領」には子どもたちに指導すべき内容や項目が示されていますが、使用する教材や教具、指導方法は示されていません。指導すべき最低限の内容が示されているだけで、実際の指導法は各教師が自分で考える必要があります。**大切なのはそれぞれの教師が、自分の経験や知識、想像力や好奇心を総動員して、学習指導要領に示されているゴールに向かって、子どもたちをどのように導いていくか、どのように気づかせていくか、そのためにどんな準備をして、どんな授業構成にしていくのか、思いを巡らすことなのです。**
この**「思いを巡らす行為」**を私たちは「教材研究」と呼んでいます。**教材研究は教師の活動の本命**なのです。